

北海道セブンスター スキーに輝く

長崎 英さん (78歳・青2区)
地 恵さん (58歳・虻8区)



2月に入り、道内では歩くスキーの大会がめじろおしです。セブンスタースキーは、2月〜4月に道内で開催される宮城国際スキーマラソンなど、構成する7つの大会に出場し、大会の最長コースを走破した人に贈られる完走証です。長崎さんは、平成23年〜25年、

泰地さんは、平成24年〜26年と共に3シーズンかけて挑戦し、輝かしい称号を獲得しました。2人は洞爺湖町歩くスキー同好会に所属し、シーズン中週3回2時間ほど仲間といっしょに大滝総合運動公園クロスカントリーコースで汗を流しています。登山やカメラなど多趣味な長崎さんは、友人の誘いで60歳から歩くスキーを始めました。「78歳で取れるなんて、ほんとううれしい。できる間は長い距離に挑戦したい」とまだまだ意欲は衰えません。

一方泰地さんは、胆振、日高で女性初の獲得。夏はフルマラソンを走り、冬のトレーニングとして、歩くスキーを4年前から始めました。「これからも自分を信じ、チャレンジ精神を忘れず、楽しく滑りたい」とさらなる高みに挑みます。

日本ウォーキング特別功労賞 北海道ツデーマーチ実行委員会受賞



賞状を手にする門馬実行委員長

本ウォーキング協会が創立50周年を迎え、平成26年10月16日、東京の国立オリンピック記念青少年総合センターカルチャー棟で、記念の式典が開催されました。式典の中で、北海道ツデーマーチ実行委員会（門馬利美委

員長）が、ウォーキング運動の普及振興に特に功労のあった団体として、特別功労賞を受賞しました。

同ツデーマーチは、初秋の洞爺湖周辺を歩くイベントで、昭和63年から毎年開催され、昨年で27回を迎えました。

門馬同委員長は「大変感激しています。先輩たちが努力で続けてきたことが評価されたと思います。受賞を励みにこれからも長く続けていきたい」と喜びとともに賞の重みをかみしめていました。

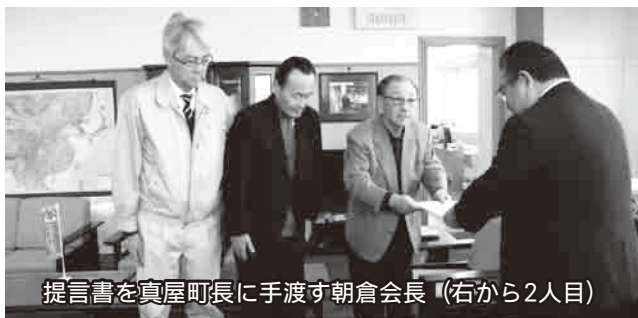
商工会

地域活性化の提言書 町に提出

洞爺湖町商工会（朝倉英隆会長）は、設置した地域活性化特別委員会（委員長・大久保和幸副会長）がまとめた提言書を、昨年12月5日、役場を訪れ真屋町長に提出しました。

提言書は、「子育て・教育」「環境・産業・雇用」の各部門から意見をまとめて集約。

「子育て・教育」部門は、「安心して子どもを産み育てられる環境づくり」「特色ある教育学習による基礎学力の向上」を提言し、出産祝い金の支給や義務教育までの教育費等の負担軽減などを提案しています。「環境・産業・雇用」部門では、「10年後の洞爺湖町の環境的な仕組みづくり」や「月浦地区及びネイパル洞爺跡地の活用計画」などの居住環境整備を提言し、ネイパル洞爺の跡地利用として、畑付滞在体験ハウスの設置や温泉熱を利用した農水産物の栽培による雇用の拡大など、地域が元気になるための諸策をテーマごとに示しています。



提言書を真屋町長に手渡す朝倉会長（右から2人目）